

静視協第1回:研修会報告書

日時	平成26年 8月 9日(土) 15:00 から 17:00
場所	静岡県総合社会福祉会館シズウエル 1階集会室
テーマ	「焼津市における3歳児健診眼科検査の取り組み」
出席者	医療関係 29名、 学校関係 3名、 福祉関係 12名、 当事者 0名、 行政関係 0名、 その他 2名、 合計 46名
内容	<p>1) 視能訓練士小関裕乃さんより報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津市では、毎月3回視能訓練士と看護師が視覚検査を担当し、家庭によるアンケートと視力検査に関する問診の他、屈折検査および眼位・眼球運動検査を行っている。 ・静岡県(視能訓練士の参加なし)と焼津市の過去3年間における眼科検査の結果を比較すると、精密検査受診票交付率、屈折異常・斜視の検出率ともに、焼津市は高く、これは他県における視能訓練士による眼科健診結果とほぼ一致する。 ・眼科検査において異常を検出することで、就学前に視力の向上をはかることのできる幼児が増えることから、意義があると感じている。 ・これらの検査は、保健師・看護師の協力があってこそ実施可能であり、保健師とも相談できる間柄であることが円滑な検査ができる大きな理由のひとつである。 ・課題として、家庭での視力検査の実施率向上、精密健診の未受診および視覚検査の再検査未受診の減少、現在の検査項目への視力検査導入の検討が挙げられる。 ・視能訓練士一人では現在の検査に視力検査を加えることは難しいが、視力検査に限れば可能である。各市町ごとに、健診にどんな検査を取り入れていくかを考えていってほしい。 <p>2) 焼津市保健センター保健師法月友子さんより報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津市では、3歳児健診の眼科検査に使用していた検査機器部品が製造中止になったのをきっかけに、別の機器と視能訓練士の導入を決めた。 ・アンケートだけではわからないことや、検査ができない子も少なくない中、視能訓練士が入ることで受診が必要な幼児をスクリーニングできている。 ・保健師に対し視能訓練士による研修会を実施したり、課題があると話し合っ解決するなどしてきた。お互いにコミュニケーションを取りながら進めることが大切である。 ・課題としては、健診全体の待ち時間が長いこと、家庭で視力検査をして来ない幼児も多いこと、視覚検査の再検査の再来所者数が少ないことなどがある。

3) 質疑応答及びディスカッション

- ・眼科検査について、アンケート項目、検査の会場の様子、視力検査対象児、判定の方法などについて、具体的な質問があり、回答があった。
- ・保健師や看護師が全体の流れや幼児の様子を細かく見ながら、滞りなく眼科に幼児が回るよう、配慮してくれていることで、多くの人数を時間内に検査できている。
- ・アンケート項目の中に、片眼を隠して嫌がるという項目が入っていない点について、スクリーニングを行うための必要項目として、見直す必要がある。
- ・東部地区では、視覚支援学校が保健センターと連携して地域で相談会を実施し、3歳児健診の際に不安のあった幼児に対して相談を行う機会がある。
- ・3歳児健診視覚検査の指針は、家庭での視力検査とアンケートで、2次検査として、保健センター等で視力不良および検査不可能の児に対する検査とアンケート回答で異常を疑われる児の検査の実施とされている。この指針に照らし合わせて、検査項目を検討してもらいたい。

4) 今後の課題

- ・最後に意見が出されたように、3歳児健診のスクリーニングとしての意味をふまえ、今後、判定の規準や方法について、十分検討する必要があることを共通理解した。また、保健センター側とコミュニケーションを取りながら円滑に実施できるよう、工夫が必要である。
- ・今回、会場に10名弱の保健師がおり、できれば現場の保健師の方々から意見をもらいたかったが、発言はなかった。いろいろな立場の方々から意見を出してもらえるような進行を心がけたい。
- ・予想以上に参加者があり、会場の収容人数を大きく越えてしまい、急ぎよ別の部屋を借りることになった。今後は、できるだけ広めの会場を用意するようにしたい。